



NO.034

FAS通信

平成18年2月号
株式会社福地建装
北斗市中野通 324番地
TEL0138-73-5558

「ファースの家」と一般住宅の温度差について

昨年末から、今年の1月末まで続いていた寒さも、若干ではありますが和らいできたかと思えます。それでも地域によっては、例年をはるかに凌ぐ寒さや降雪があるのも事実です。一般住宅にお住まいの方にお伺いすると、北国では灯油の高騰などの影響を受けて1ヶ月4万円以上の暖房費がかかったとのお話も良く聞く「極冬」となっています。一方、南半球のオーストラリアでは逆に酷暑となっており、この寒さも地球温暖化の影響と言う事です。

この寒さで「ファースの家」にお住まいのお客様におきましては、他の住宅との差(暖房費・部屋毎の温度ムラ)を実感いただける季節かと思えます。

西日本でも記録的な寒さの中で「ファースの家」は暖かいとの評価を頂いております。しかし、稀に暖房器の設置位置や設定容量によっては、「温度差にムラがある!」といったお話も多く聞かれます。

そんな時の対処方法としては、寒い場所を作らないために中間仕切り戸や襖などを開放する。蓄熱暖房器の蓄熱量を多くしてファンを稼働させない。局所暖房の薦めなどがございます。特に寒いからと言ってのファン稼働を行いますと、暖房器の蓄熱量が一気に激減して深夜の通電時間まで熱を出し切ってしまうからです。本来、蓄熱暖房機は放熱板からの自然放熱だけで暖房を行う事が目的で開発されており、ファン稼働は一時的な対処暖房に限って稼働させてください。

現在、ファース本部が行っている暖容量設定計算では容量が足りないとのご意見はほとんどございませんが、計算より暖房器を少なく設定されているお客様に限り「寒い」とのご意見も稀にございます。その時はのように、局所暖房を用いて温度ムラを低減させる必要があるのです。

「ファースの家」に限らず家の断熱は「外壁面側」のみに行うのが一般的です。部屋間での温度差は低温部分の含水量を増加させ、カビの胞子の発生を招き、人の健康に影響を及ぼしたり、腐朽菌の発生で建物の寿命にも直結

します。「24時間全館暖房していても省エネルギーな家」それが「ファースの家」の特徴です。正しく住まい、無駄な費用は払わないようにしましょう。

インフルエンザと湿度管理

2006年第3週のインフルエンザ感染症発生動向調査によると、前週では西日本を中心に警報レベルを超える地域が多かったのですが、現在では東日本においても警報レベルを超えている地域が広がりつつあります。

インフルエンザは普通の風邪と同じ症状の他、高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛など全身の症状が突然現れ、一旦流行すると短期間に多くの人へ感染するようです。予防方法としては、ワクチンの接種・帰宅後の手洗い・うがい・十分な休養と栄養を摂取し抵抗力を高めるなどがありますが、家の中の環境においても大変重要なことがあります。それが「湿度管理」です。空気が乾燥すると、のどの粘膜も防御機能が低下し、インフルエンザに感染しやすくなります。「ファースの家」は湿度管理を行っているため、常にインフルエンザへの対策ができていると言っても、過言ではありません。

但し、生活発生水が少なかったり、住宅の容積があまりにも大きい場合は、過乾燥気味になる可能性もありますので、その際は行為的に蒸気を室内に放出するなどの工夫が必要となります。

冬の知恵袋

フライパンの焦げ付きは

玉子焼き器・中華鍋にしても同じなんだけど、フライパンの外側には、油汚れ・食物の汁なんか次第に積み重なって、黒い焦げのようにこびりつくよね。これが、金タワシなんかでこすってもなかなか取れなくて大変じゃない?…そんな時、こんな方法を試してみてください。まず、空のままフライパンを火にかけて、弱火から徐々に温度を上げていくな。そうすると煙が出てくるんだけど、この煙の色がポイントなんだよ。紫色の煙が出なくなったら、外についていた汚れが灰になった証拠だから、火を止めて自然に冷ました後、タワシでこすると綺麗に取れるんだよ。

